

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0272000324		
法人名	社会福祉法人徳寿福祉会		
事業所名	社会福祉法人徳寿福祉会陽だまりの家ひまわり		
所在地 (電話番号)	〒039-3332 青森県東津軽郡平内町清水川字権十郎新田8番 (電話) 017-755-5744		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成22年2月25日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.78人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 ~ 冬期12,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.5 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひきち内科クリニック、平内中央病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の外も中も綺麗に整備・整頓され清潔感があり、リビングや各居室も掃除が行き届き職員の心遣いが感じられる。玄関に入るとすぐに職員が笑顔と挨拶で迎えてくれる。職員の接遇教育が行き届いており、すべての職員の笑顔と挨拶に好感が持てる。入居者は、生き生きと暮らしており、事業所内は職員と入居者の笑顔で溢れている。リビングと各居室には、行事や日々の写真が飾られており、職員が写真で作ったカレンダーやたより、入居者一人ひとりのアルバムには真心が感じられ、入居者と家族に喜ばれている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価結果で取り組みを期待していたものについて、管理者を中心として早期に取り組む体制が出来ている。前回評価では運営に関する家族等意見の反映が課題であったが、苦情報告書の様式を作成し、苦情を処理するまでの一連の流れを決め統一して対応する体制を整えている。主だった苦情はないが、小さな苦情や意見・要望を聞き取り報告書に記入し対処している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義とねらいについて職員全員が理解できるよう、管理者が説明している。全職員で自己評価について話し合い、管理者がまとめている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善点については早期に対応し、より良いサービスの実践に活かされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>グループホームを理解してもらうため、介護報酬の改定等介護保険に関する事をはじめとして、グループホームの体制と対応について議題にしている。町内会役員の交代に伴い、運営推進会議の主旨についての意見交換を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、苦情に関する案内を送付している。面会時には家族の想いが話せるような雰囲気づくりに努めている。また、家族からの要望は、職員間で対応策を検討し、家族へ連絡している。苦情に対しては、苦情報告書の様式を作成し、苦情を処理するまでの一連の流れを決め、統一して対応する体制を整えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>家族や地域の方々を招待し交流会を開催しており、交流会で披露される踊りの練習は婦人会の協力を得るなど、積極的に地域と交流している。また、保育園や小学校、敬老会にも参加しているほか、認知症に関する相談場所として地域に貢献している。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と共に地域で暮らす為に、開設当初に考えた理念を今も大切に守っている。理念には方言を取り入れ、入居者・職員・地域の方に馴染みの深いものとなっている。入居者の笑顔を大切にするという、独自の理念を掲げ、実践されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々理念を念頭に置き対応している。また、ケアプランは理念を基にした課題で作られ、カンファレンスなどの場を通じて、職員間で理念を再認識している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	家族や地域の方々を招待し交流会を開催しており、交流会で披露される踊りの練習は婦人会の協力を得るなど、積極的に地域と交流している。また、保育園や小学校の敬老会にも参加しているほか、認知症に関する相談場所として地域に貢献している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義とねらいについて職員全員が理解するよう、管理者が説明している。全職員で自己評価について話し合い、管理者がまとめている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善点については早期に対応し、より良いサービスの実践に活かされている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホームを理解してもらうため、介護報酬の改定等介護保険に関する事をはじめ、グループホームの体制と対応について議題にしている。町内会役員の交代に伴い、運営推進会議の主旨についての意見交換を行っている。</p>		<p>運営推進会議を企画しても参加者の都合で2ヶ月に1度の開催頻度を保つ事が難しくなっている。運営推進会議の参加メンバーを見直す等の対策をし、定期的を開催する事を期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町が主催する会議が毎月開催され、地域包括支援センターや各事業所のケアマネジャーとの情報交換を通じてサービスの質の向上に役立てられている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者、主任は勉強会に参加するなど学ぶ機会を設けているほか、町の制度に対する進行状況も調べるなど、活用の準備が整えられている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフルームにマニュアルを備え付けているほか、管理者は日々のケアの中で虐待防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、料金や退居時の説明、家族にとって不安な点について十分な説明を行っている。また、入居者の状況について、その都度家族と相談し、ケアの方針を共有している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>金銭管理や事業所内の状況について定期的に確認されているほか、毎月個人ごとの新聞を送付し、家族に喜ばれている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、苦情に関する案内を送付している。面会時には家族の想いが話せるような雰囲気づくりに努めている。また、家族からの要望は、職員間で対応策を検討し、家族へ連絡している。苦情に対しては、苦情報告書の様式を作成し、苦情を処理するまでの一連の流れを決め、統一して対応する体制を整えている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動等はほとんど無く、異動や離職のあった際でも十分な引継ぎ期間を設けるなど、入居者や家族への配慮がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年一回以上、外部研修に参加しているほか、事業所内での勉強会も定期的開催している。職員を育てる取り組みとして、職員に個々の目標を設定してもらい自己評価してもらっている。自己評価後はスタッフ間で評価をし合う事で、お互いに成長できるシステムを構築している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催される会議で、町内のケアマネージャーと情報交換し、サービスの質の向上に役立てられている。また、グループホーム協会の研修や会合にも積極的に参加している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の聞き取りなどで、今までの生活環境や習慣などの生活歴を把握し、精神的な不安を最小限に抑え、安心して生活が送れるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの個性を大切に、入居者の得意なことや趣味を活かせるような支援を心がけている。その一例として、俳句の得意な入居者の作品は、町の広報に掲載されるなど、関わる方々の喜びになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいアセスメントが行われており、専門職による分析のほか、「ラーメンが食べたい」など入居者のまっすぐな意見が取り入れられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者個々の日誌にそれぞれのケアプランが記載されており、日々プランを意識した実践と記録が行われており、それを基に家族や協力医療機関との連携を行っている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の定期的、もしくは必要に応じたカンファレンス、モニタリングにより現状に即したケアを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの利用に関して、居宅との連携を密にしているほか、隣接するデイサービスの車輜を活用し、入居者の便宜を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診や往診はもちろんだが、町外医療機関への受診も行い、適切な医療が受けられるよう配慮している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態に応じて、家族や医療機関との話し合いの場を設け、終末期に向けた方針を共有している。職員は、その結果を基に支援内容を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、記録管理については、職員間で注意しあい、プライバシーの確保に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の希望を職員が把握し、入居者一人ひとりの願いやペースを大切にしたケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、食事準備、後片付けなど、入居者ごとに役割を分担し、食事を楽しむ工夫をしている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一日を通して行っており、本人からの希望があった場合には、出来る限り対処するよう努めている。また、入居者の重度化に伴い、リフト浴を設置し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事、洗濯、清掃など日常の役割が決まっており、意欲を持って行えるよう支援している。また、畑仕事、編み物、歌、俳句など、個々の趣味が生活の張りになるよう取り組まれている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的なドライブのほか、資源ゴミを出しに行ったり、回覧板を届けに行くなどの日常的な外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアルの設置等、職員への周知はもちろんだが、家族の意向が身体拘束に当たる場合でも、話し合いを通じて理解が得られるよう努力している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵は開放されている。また、外へ出たい入居者へは職員が付き添うなど対応している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>定期的に避難訓練や消化訓練を行っており、地震等の災害を想定した訓練も行っている。地域の連絡網等についても運営推進会議等を通じて話し合いを持っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分摂取量の記録により一人ひとり把握できている。不足傾向にある方に対しては、嗜好する飲み物やゼリー、栄養剤により補えるような工夫をしている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを常備し、職員間で注意しているほか、定時のトイレ消毒、また、来客に対しても協力を呼びかけ、消毒や食べ物の持ち込みの制限などにより予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には、入居者と職員の写真で出来た「たより」や飾りが沢山飾られている。ユニット間には区切りがなく事業所内を自由に行き来できる。どの場所も清潔感がありきちんと清掃されている。共用のトイレは扉の色で区別され入居者が認識しやすいように配慮している。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのものが持ち込まれていたり、写真が多く飾られ、それぞれの空間と感じられるよう配慮されている。一人ひとりに個別のアルバムがあり、家族が面会時に気軽に見る事が出来るよう居室に置いている。		

 は、重点項目。